

定期報告(ウルグアイ内政・外交:2016年4月)

【内政】

1 パナマ文書

(1) 7日付週刊「ブスケダ」誌は、国際調査報道ジャーナリスト連合(ICIJ)が公開したいわゆる「パナマ文書」に関し、パナマの Mossack Fonseca 法律事務所とウルグアイ人政治家、企業家等の関係について大きく報じた。同誌は2015年7月からICIJの「パナマ文書」調査に参加している。同誌によれば、数多くのウルグアイ人企業家、現役上院議員、元閣僚及び国会議員、サッカー選手らが Mossack Fonseca 法律事務所を通じたオフショア企業のオーナー又は株主になっている。現役の政府関係者周辺で名前が挙がっているのは、ミゲル・ブレヒネル・セイバル計画(全国の公立小学校生徒向けラップトップPC配布プログラム)理事長及び企業家でニン・ノボア外相夫人のパトリシア・ダミアニ氏。野党ではペドロ・ボルダベリー上院議員(コロラド党)が挙げられている。

(2) 6～8日付当地主要各紙は、「パナマ文書」の漏洩に関するウルグアイ議会、政府の反応について報じているところ、概要次のとおり。

ア 与党拡大戦線(FA)所属の上院議員は、資金洗浄に対する明確かつ厳格な基準を定めるべく議会に特別委員会を設置することを近く提案する予定。2013年に同委員会が国内の法制度を国際社会の標準に適合させる努力をした際、ウルグアイはOECD、ラテンアメリカ財政行動タスクフォース(GAFILAT。旧称GAFISUD)等の国際機関から高く評価された。(当館注:8日付週刊「ブレチャ」誌によれば、2012年の時点でOECDは、「ウ」における様々な顧客情報保護の仕組みが資金洗浄、租税回避への便宜供与として機能しているとして「ウ」を「グレーゾーン」と格付けしていた。)

イ 国家税務総局(DGI)は、7日付「ブスケダ」誌報道で名前が挙げたウルグアイの法律事務所のうち、パナマに株式会社を所有している事務所に対し情報開示を求めることを検討中。セラDGI総局長によれば、2011年までウルグアイ人が国外で得たキャピタルゲインは課税されていなかったが、同年以降は海外における債券、株式、不動産等の資産から得られた収益についても課税対象になっている。

ウ 資金洗浄・テロ対策総局(Senacraft)は、資金洗浄の疑いのある団体の会計監査を初めて実施する予定である。

2 世論調査

(1) 1日付で Factum 社が公表したところによれば、2016年3月時点での政党支持率は次のとおり(数字の右側のカッコ内は14年10月26日大統領・上下両院議員選挙における得票率)。

拡大戦線(FA)	35% (48%)
国民党	26% (31%)
コロラド党	6% (13%)
独立党	5% (3%)
人民同盟(UP)	2% (1%)
エコロジスト党	3% (1%)
白票, 棄権	14% (3%)
分からない	9%

FAの支持率は一昨年の総選挙時点から13ポイント低下し、FA史上最も大きな下げ率を記録、1996年来最低水準となった。同時に野党第一党の国民党、第二党のコロラド党がともに支持を下げた。Factum 社は、独立党以下の左派少数政党が支持を伸ばしたことから、FAが失った支持はこれら少数政党に流れたと分析している。他方、国民党及びコロラド党が失った支持の大部分は白票、棄権、「分からない」に流れておりFA支持には回っていない。このことから Factum 社は、左派支持と伝統二政党支持の間に「見えない壁」が存在すると結論づけている。

(2) 18日付で Factum 社が公表したところによれば、2016年3月時点でのバスケス大統領の支持率は次のとおり。

支持する	33%
支持しない	38%
支持でも不支持でもない	28%
分からない	1%

不支持率が支持率を上回り、15年第2四半期来の支持率減、不支持増の傾向が再確認された。第二次バスケス政権2年目の第1四半期における大統領支持率をムヒカ政権、第一次バスケス政権の同時期と比較すると、大統領支持率はこれまでのFA政権中最も低く、また不支持率は最も高い値を示している。

【外交】

1 ムヒカ前大統領の訪日

5～12日、ムヒカ前大統領が訪日し、東京、大阪、京都、広島を訪問した。今次訪日はフジテレビ及び角川書店の招待を受けたもの。訪日にはトポランスキー上院議員（ムヒカ前大統領夫人）及び前大統領に関するノンフィクションの著者でジャーナリストのダンサ氏、トゥルボビッツ氏（いずれも「ブスケダ」誌記者）が同行。訪日中、東京外国語大学での講演会、テレビ出演、小学校訪問、原爆資料館訪問等が行われた。

2 ニン・ノボア外相のドイツ及びベルギー訪問

6～8日、ニン・ノボア外相がドイツ及びベルギーを訪問した。ドイツではシュタインマイヤー外相と会談、二国間通商及び投資増の可能性、両国が重視するエネルギーマトリックスの転換、環境政策及びグリーン・エコノミーが議題にのぼった。また独側からバスケス大統領を独公式訪問に招待した。更に、メルコスール・EU自由貿易協定交渉について、ウルグアイがメルコスール輪番議長国を務める2016年上半期中に行われる予定のオファー交換の重要性で一致した。ベルギーではマルムストロームEU貿易担当欧州委員と会談、メルコスール・EU自由貿易協定について、財・サービス・政府調達に係るオファー交換を16年5月の第二週に行うことで合意した。

3 ブラジル情勢に関する政府・与党の動き

20日、ウルグアイ大統領府はブラジル政治情勢に関しプレスリリースを発出したところ、概要次のとおり。

「ウルグアイ政府は、我々の伝統である他国の内政への不干渉原則を忠実に守りつつ、伯の政治的安定に影響を与えている一連の出来事を憂慮の念をもって注視している。現下の伯政治情勢では、伯国民の投票により民主的に選出され正統性を有するルセーフ大統領の停職が決定される可能性がある。ウルグアイは、伯における政治的・法的手続きが、その適正な運用を定めた憲法及び民主的価値の枠組みのもと行われるであろうと信ずる。」

4 メルコスール

25日、モンテビデオのメルコスール事務局においてアスンシオン条約署名25周年記念式典が開催され、バスケス大統領、ニン・ノボア外相、ビエイラ・ブラジル外相、ロイサガ・パラグアイ外

相、フォルドーリ・アルゼンチン外務次官、ヤネス・ベネズエラ外務次官、ブラウ在ウルグアイ・ポリビア大使ほかが出席。

ニン・ノボア外相は演説で、5月11日にブリュッセルにおいてEUとの間で自由貿易協定交渉に係るオファー交換を行うと発表した。

（了）